

2025年7月期

決算説明資料



株式会社 **山王**

3441・東証スタンダード

目 次

- ▶ 2025年7月期 決算概要
- ▶ 2026年7月期 通期見通し
- ▶ トピックス
- ▶ ご参考（会社概要等）



業績サマリー（2025年7月期累計 2024年8月～2025年7月）

新製品受注獲得に加え、新ラインの稼働率向上等、生産性向上も進んだことから前期比増収増益となりました

（単位:百万円）

	2024年7月期					2025年7月期					増減率
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	
	23.8-23.10	23.11-24.1	24.2-24.4	24.5-24.7	23.8-24.7	24.8-24.10	24.11-25.1	25.2-25.4	25.5-25.7	24.8-25.7	
売上高	2,172	2,090	2,045	2,493	8,802	2,516	2,523	2,719	3,070	10,830	+23.0%
営業利益	234	114	69	▲ 184	232	338	225	186	46	796	+241.7%
当期純利益	220	177	105	▲ 190	312	276	195	157	136	765	+144.8%
営業利益率	10.8%	5.8%	3.4%	▲ 7.4%	2.6%	13.4%	8.9%	6.8%	1.5%	7.4%	+4.8pt



2025年7月期 連結財務概要

(単位:百万円)

	2024年 7月末	2025年 7月末	増減
総資産	12,054	12,851	+797
有利子負債（リース債務を除く）	3,985	4,233	+248
純資産	6,419	6,755	+335
1株当たり純資産（円）	1,437	1,561	+124
自己資本比率（％）	53.3%	52.6%	▲0.7%
D/Eレシオ（倍）	0.62	0.63	+0.01

※D/Eレシオ
企業の健全性を表す指標
有利子負債/純資産で算出します。

地域別業績動向

日本は自動車市場並びに通信市場、フィリピンは自動車市場がけん引役となり増収

日本

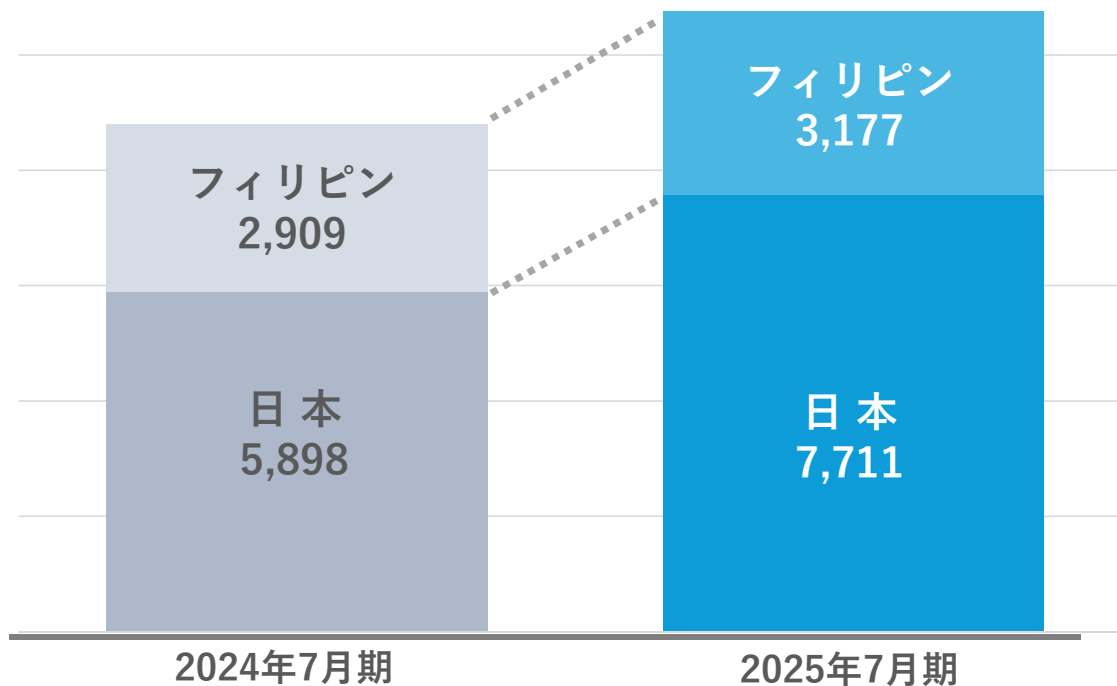
売上高 7,711 (前期比 +30.7%)

フィリピン

売上高 3,177 (前期比+9.2%)

(単位:百万円)

▶ 売上高 (単位:百万円)





貸借対照表の状況

(単位:百万円)

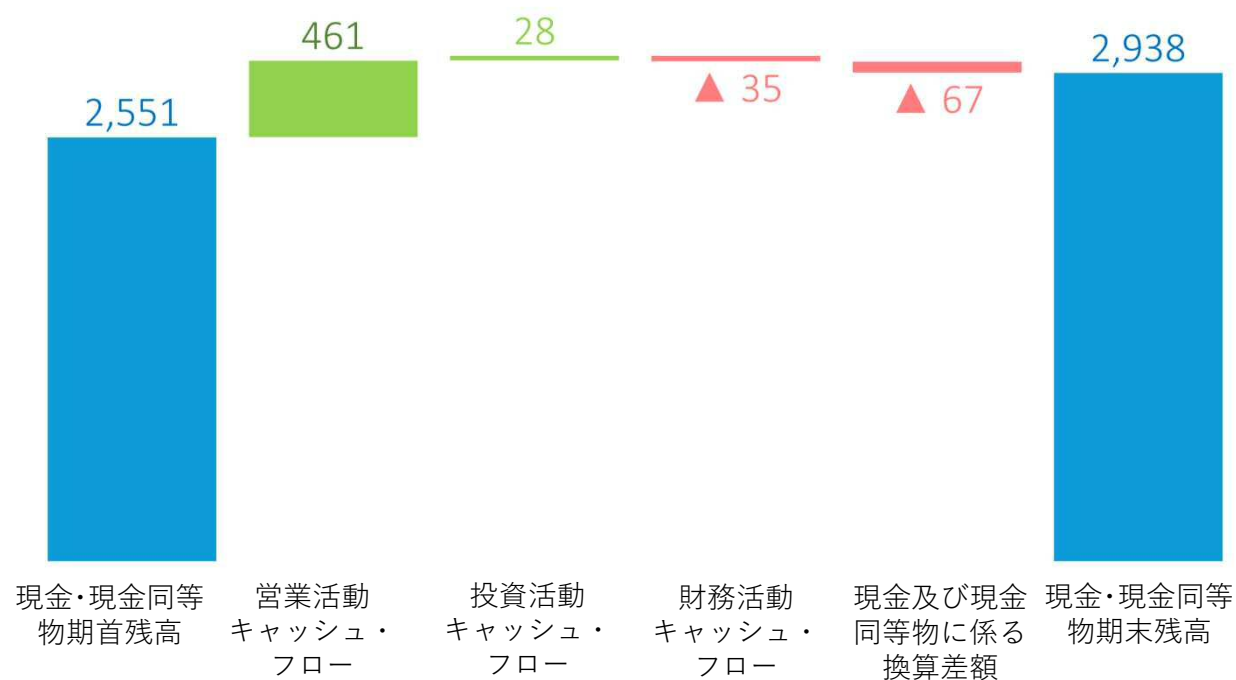
資産			
科目	2024/7末	2025/7末	増減額
現預金	3,901	3,610	▲290
営業債権	2,181	2,534	+353
棚卸資産	1,970	2,330	+359
その他流動資産	186	121	▲64
流動資産合計	8,238	8,596	+357
有形固定資産	3,148	3,483	+335
無形固定資産	147	116	▲30
その他	519	655	+135
固定資産合計	3,815	4,255	+439
資産合計	12,054	12,851	+797

負債			
科目	2024/7末	2025/7末	増減額
支払債務等	364	422	+58
借入金	3,985	4,233	+248
リース債務	270	244	▲25
その他負債	1,014	1,195	+180
負債合計	5,634	6,096	+461
純資産			
科目	2024/7末	2025/7末	増減額
資本金及び資本剰余金	5,594	6,317	+723
自己株式	▲260	▲395	▲134
その他	1,086	833	▲252
純資産合計	6,419	6,755	+335
負債純資産合計	12,054	12,851	+797

キャッシュ・フローの状況

▶ 2024年8月1日～2025年7月31日 キャッシュ・フロー

(単位:百万円)



【営業活動キャッシュ・フローの主な項目】

税引き前当期純利益	813
減価償却費	448
売上債権の増減額 (増△)	△366
棚卸資産の増減額 (増△)	△386

【投資活動によるキャッシュ・フローの主な項目】

定期預金の預入による支出	△748
定期預金の払戻による収入	1,349
有形資産の取得による支出	△580

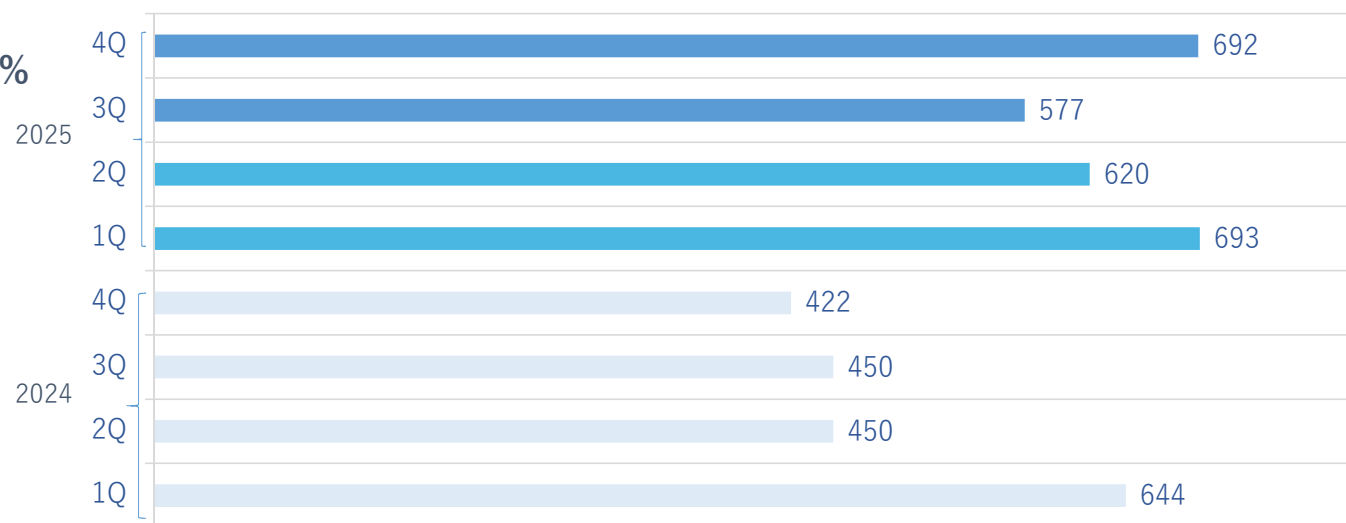
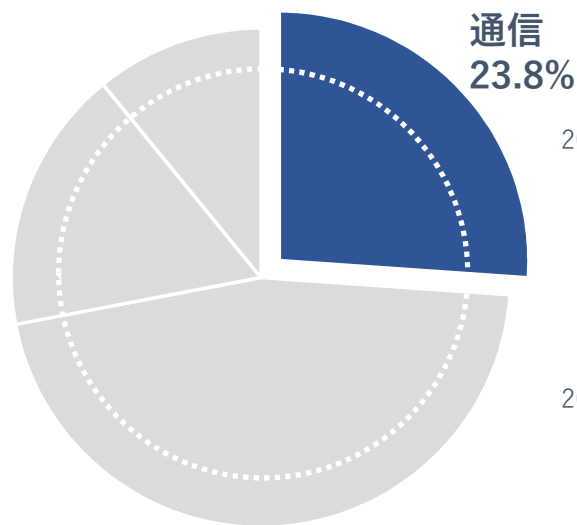
【財務活動によるキャッシュ・フローの主な項目】

短期借入金の純増減額	580
長期借入金の返済による支出	△352
自己株式の取得による支出	△139



分野別売上（通信）

スマートフォン等最先端製品の新製品受注が寄与しました



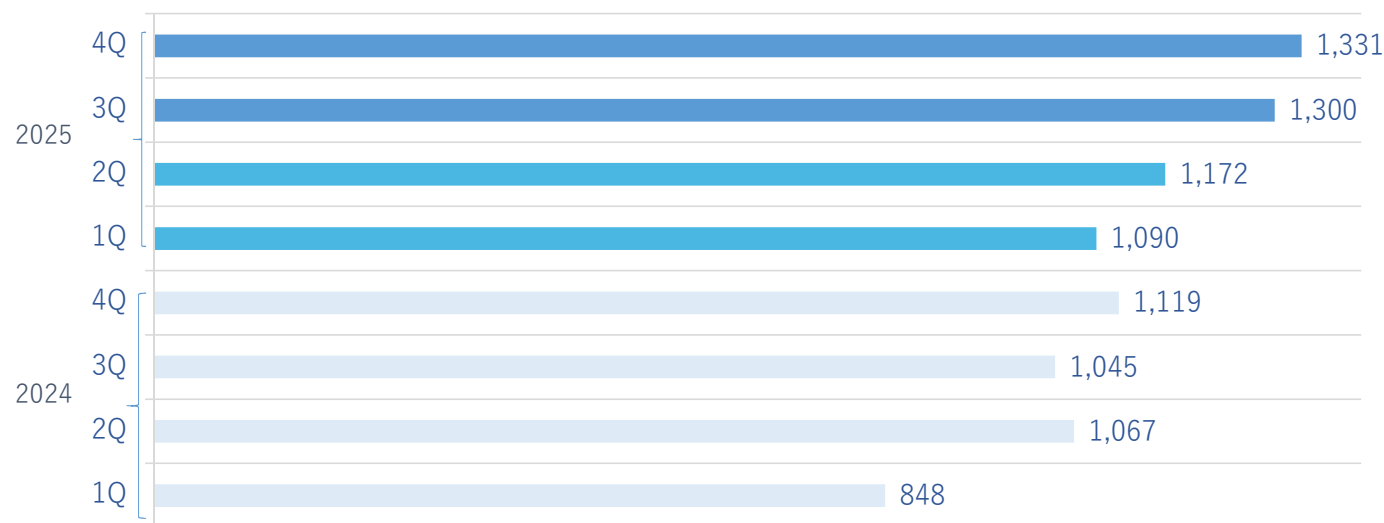
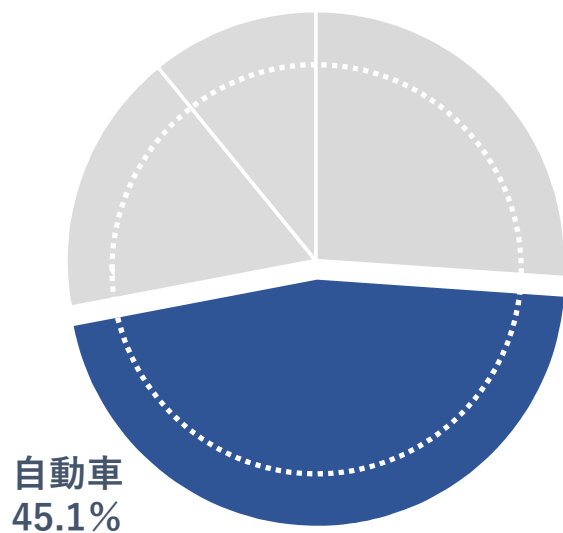
	2024年7月期					2025年7月期					増減率
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	
売上高	644	450	450	422	1,966	693	620	577	692	2,584	+31.4%

（単位:百万円）



分野別売上（自動車）

自動車向け新製品受注が寄与し、増加傾向継続しつつ、堅調に推移しています



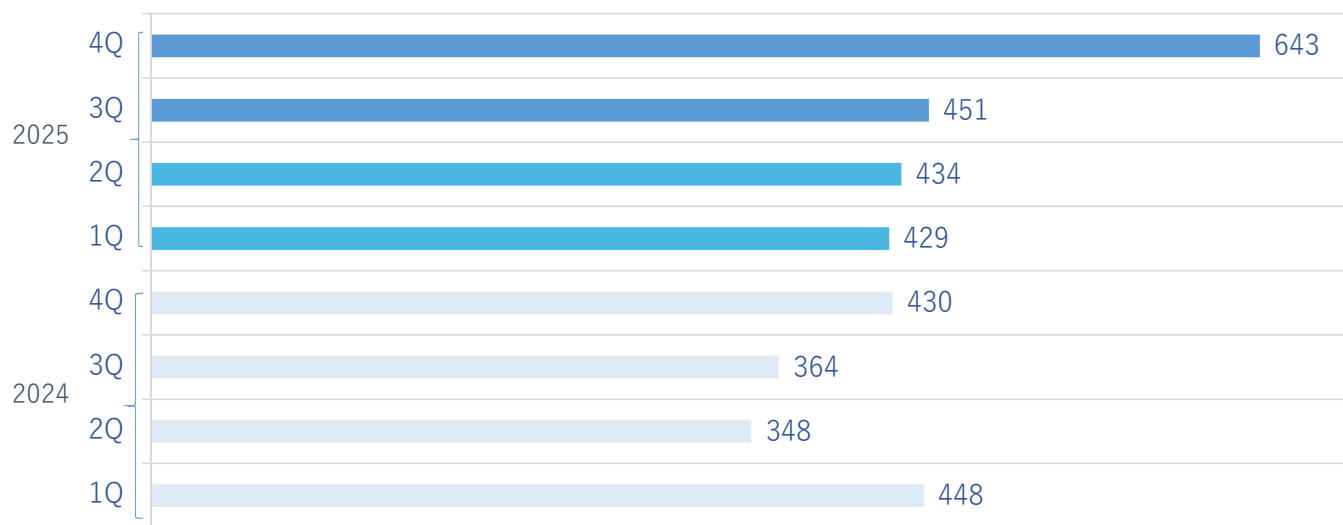
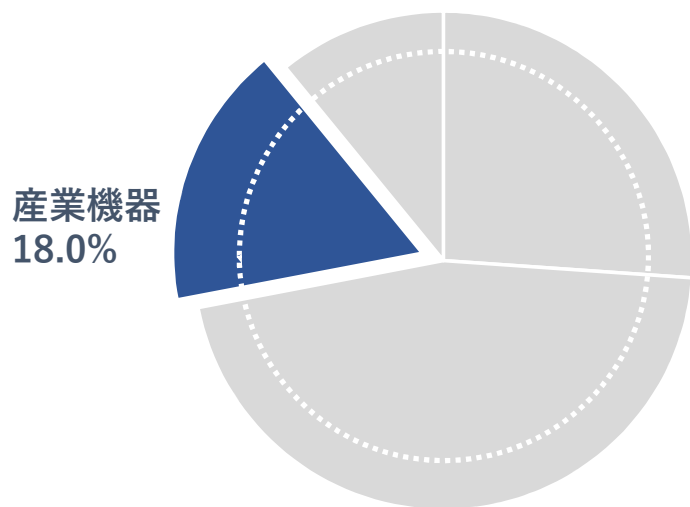
	2024年7月期					2025年7月期					増減率
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	
売上高	848	1,067	1,045	1,119	4,079	1,090	1,172	1,300	1,331	4,895	+20.0%

（単位:百万円）



分野別売上（産業機器）

産業機器向けで長期化していた在庫調整が足もとで回復の兆しが見られたことから、前期比増加となりました



	2024年7月期					2025年7月期					増減率
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	
売上高	448	348	364	430	1,590	429	434	451	643	1,959	+23.2%

(単位:百万円)

-
- ▶ 2025年7月期 決算概要
 - ▶ 2026年7月期 通期見通し
 - ▶ トピックス
 - ▶ ご参考（会社概要等）
-



2026年7月期 通期見通し

売上は、前期に続き堅調に推移する見込み。一方で、設備投資による償却負担増や原材料高を織り込み減益予想。

(単位:百万円)

	2025年7月期 実績	2026年7月期 見通し
売上高	10,830	10,900
営業利益 (%)	796 (7.4%)	500 (4.6%)
当期純利益 (%)	765 (7.1%)	440 (4.0%)



設備投資・研究開発費

受注拡大、生産性向上に向け継続的に設備投資を実施予定

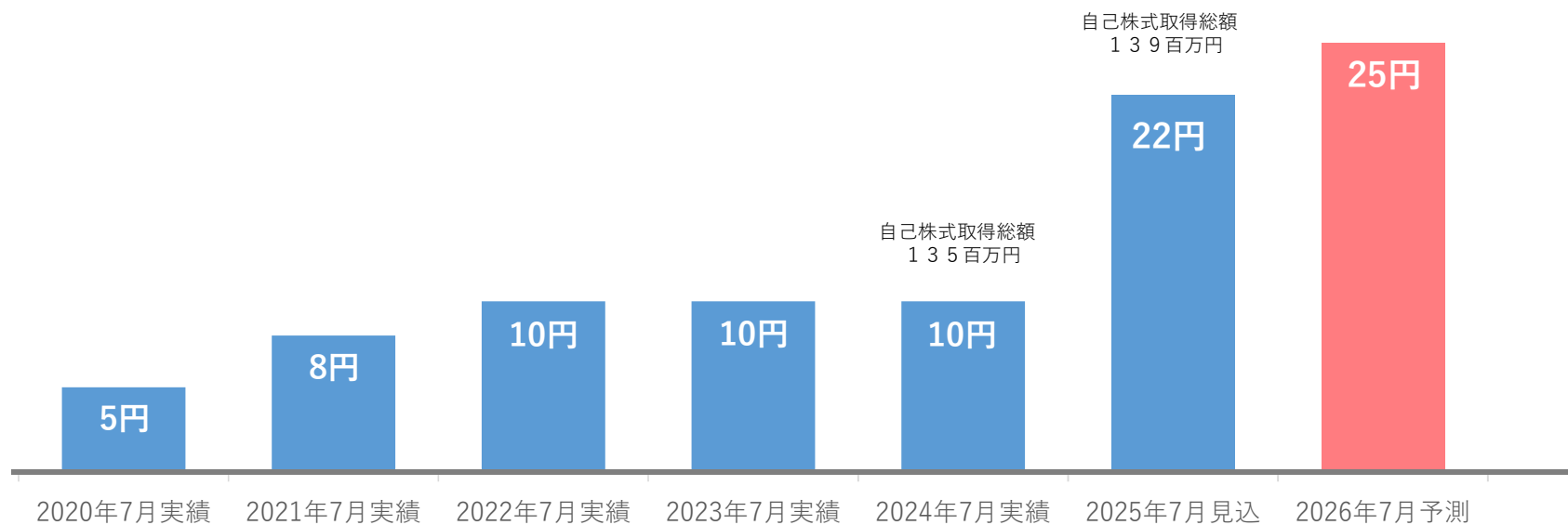
(単位:百万円)

	2025年7月期実績	2026年7月期見込	増減率	前期差異
設備投資額	809	987	+22.0%	178
減価償却費	448	601	+34.1%	152
研究開発費	38	35	▲8.6%	▲3

単年度の業績の影響を受けにくい株主資本配当率（DOE）を採用

- ・今後も安定的な配当を実施する方針です

▶ 配当金推移



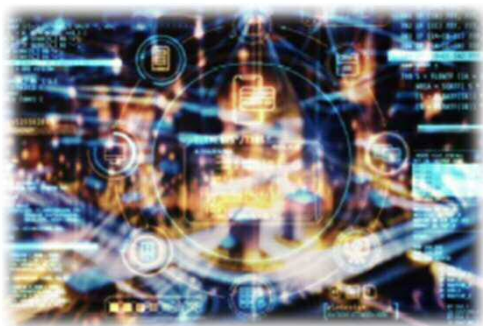
-
- ▶ 2025年7月期 決算概要
 - ▶ 2026年7月期 通期見通し
 - ▶ トピックス
 - ▶ ご参考（会社概要等）
-



成長戦略とサステナビリティ経営

「人々を笑顔に、暮らしを豊かに、技術で未来をつなぐ」ために、当社グループの成長戦略とサステナビリティ経営の推進に関してご紹介いたします

成長戦略への取り組み



カーボンニュートラルに向けた取り組み



健康経営にむけた取り組み





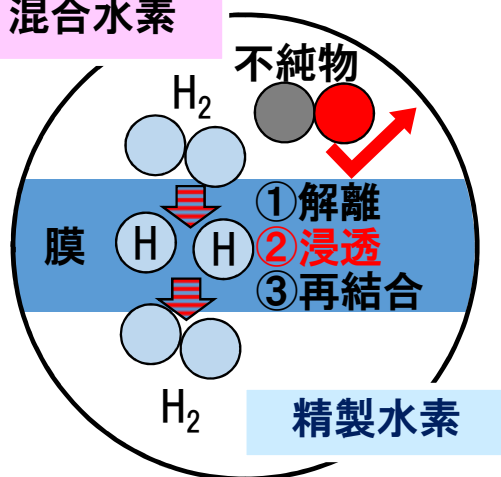
成長戦略への取り組み

めっき水素透過膜開発の概要

当社ではめっき水素透過膜の事業化に向け、開発を進めております。

- ▶水素透過膜は水素のみを浸透、透過させ、精製することが可能
- ▶めっき水素透過膜はパラジウム合金膜、多孔質ニッケル膜が複合した独自の構造
- ▶産業技術総合研究所、東京科学大学との共同開発により更なる高性能化、実用化を推進中

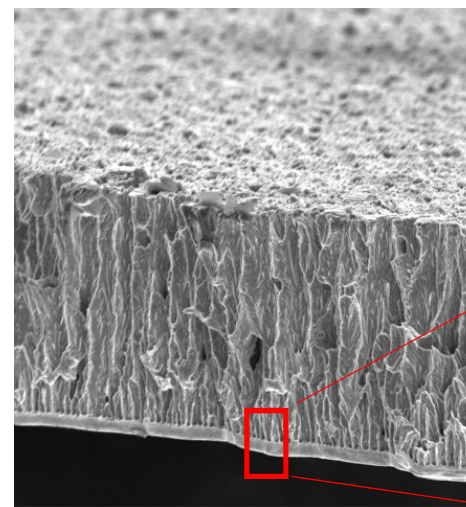
混合水素



水素透過膜による精製



めっき水素透過膜

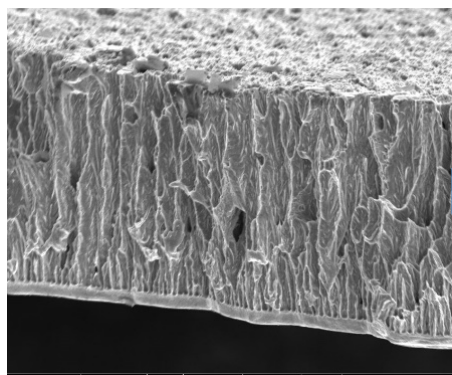


めっき水素透過膜の断面構造

パラジウム削減
高強度な複合構造

多孔質ニッケル膜
パラジウム合金膜

水素透過膜の開発課題、PR活動



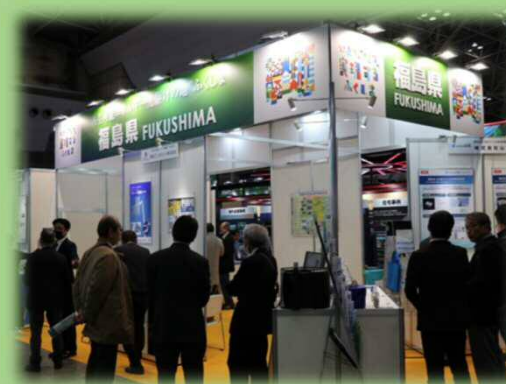
複合めっき水素透過膜



REIF ふくしま2024



第17回川崎国際環境技術展



スマートエネルギーweek2025春

開発成果
PR活動



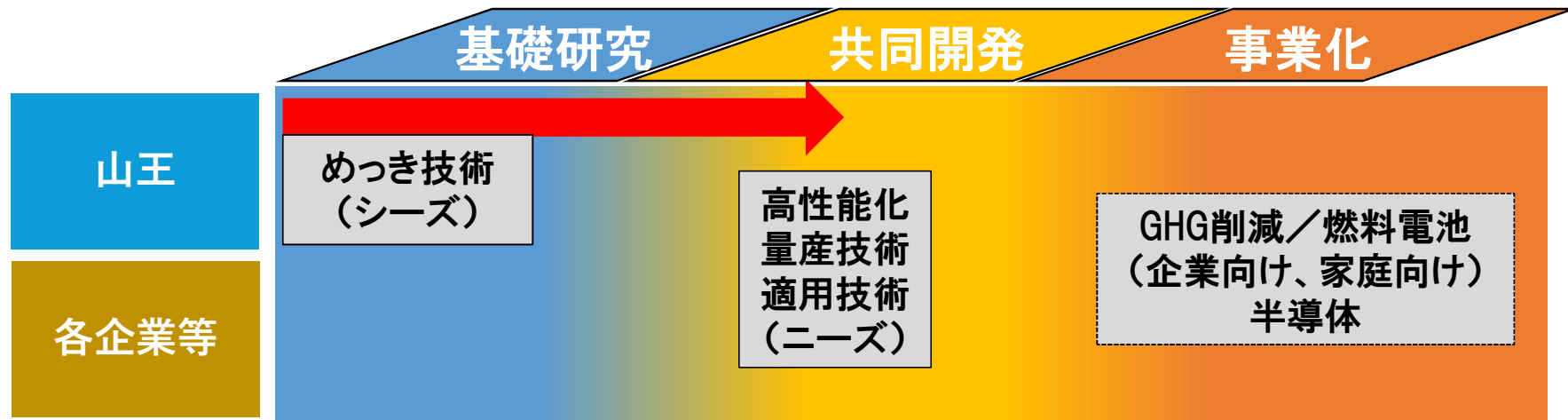
成長戦略への取り組み

水素透過膜事業化への進捗

当社では、水素製造装置の普及を目指す各企業等との共同開発を推進しています。

高性能化については概ね目途が立ったことから、新たな開発課題として取り組んでいる量産技術、水素製造装置への適用に必要な技術開発を進めています。

また、GHG削減が強く求められている中、高まるカーボンニュートラル技術へのニーズに応えられるよう、事業化への取り組みを着実に進めてまいります。

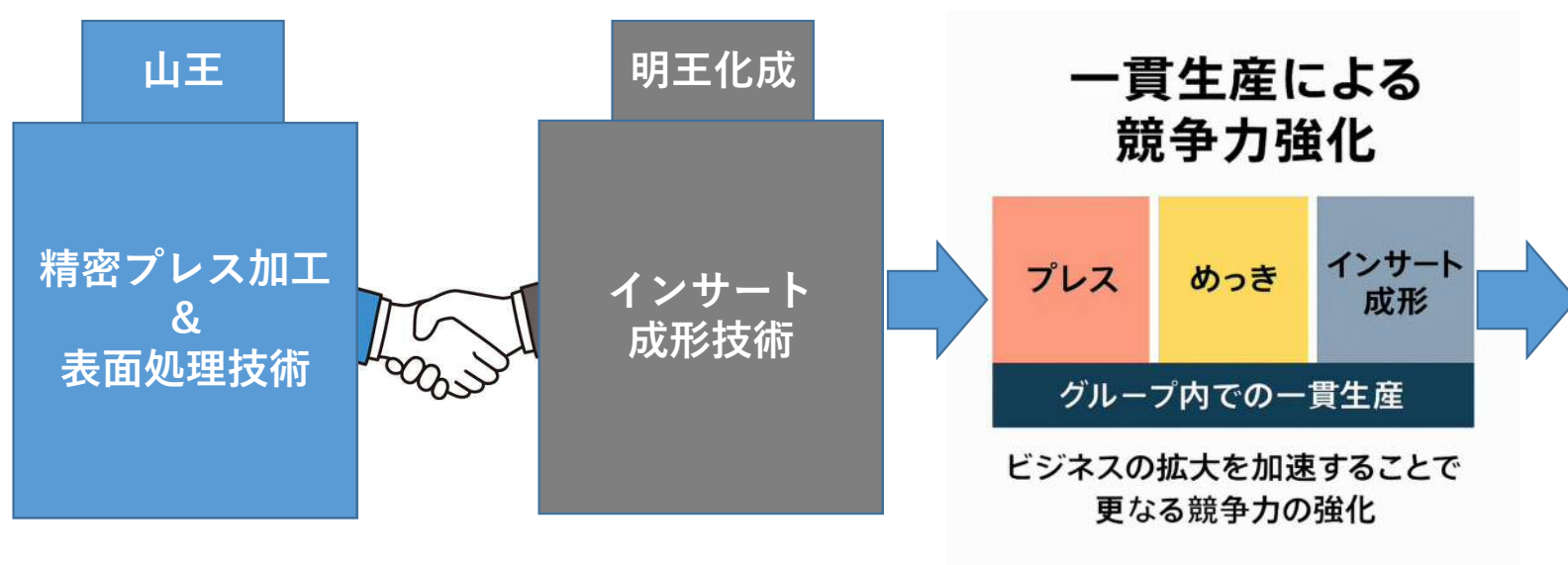




成長戦略への取り組み

M&Aによる一貫生産体制の確立

2024年11月、株式会社 明王化成をM&Aいたしました。
これにより、幅広い射出成形技術を獲得し一貫生産体制を確立。



当社の精密プレス加工・表面処理技術と、明王化成のインサート成形技術を融合し、コネクタ、センサー、コンデンサー、スイッチ分野などのさらなる事業拡大を目指します。

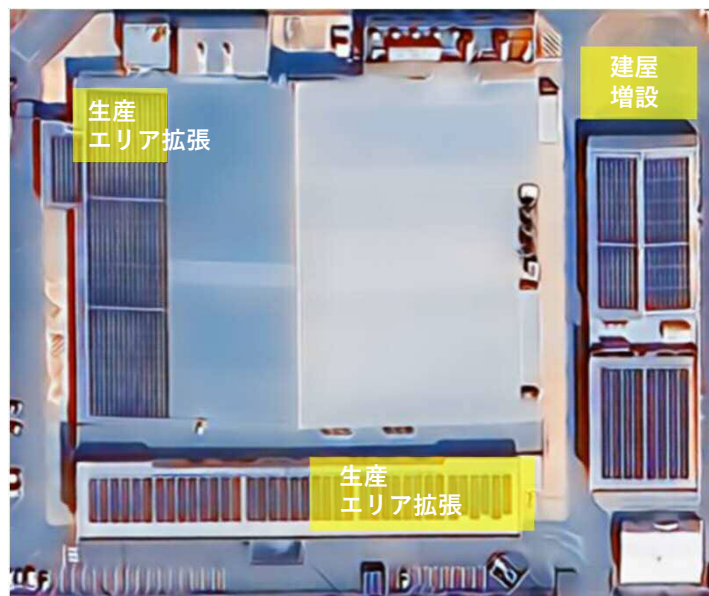




成長戦略への取り組み

東北事業部のエリア拡張

国内拠点、東北事業部の製造・開発エリアを拡充いたしました。これにより、需要拡大に迅速に対応できる体制を整え、安定した供給と競争力の向上を実現してまいります。



カーボンニュートラルに向けた取り組み

カーボンニュートラルに向けた取り組み

当社主力生産拠点 東北事業部に**太陽光発電＋蓄電池＋EMSシステム**の運用開始

[2023年3月稼働開始]

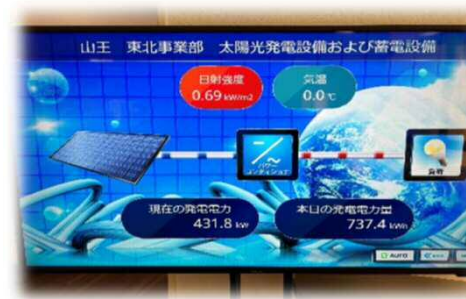
創エネ：太陽光パネル



蓄エネ：蓄電池



省エネ：EV充法電器・エネルギー管理システム：EMS



再エネ：再エネ電力の購入（非FIT非化石証書の活用）

カーボンニュートラルへの取り組みの一環として、太陽光パネル、蓄電池システムを設置、再生可能エネルギー100%導入により、大幅なCO₂排出量削減を実現しました。



再生可能エネルギー

100% 導入

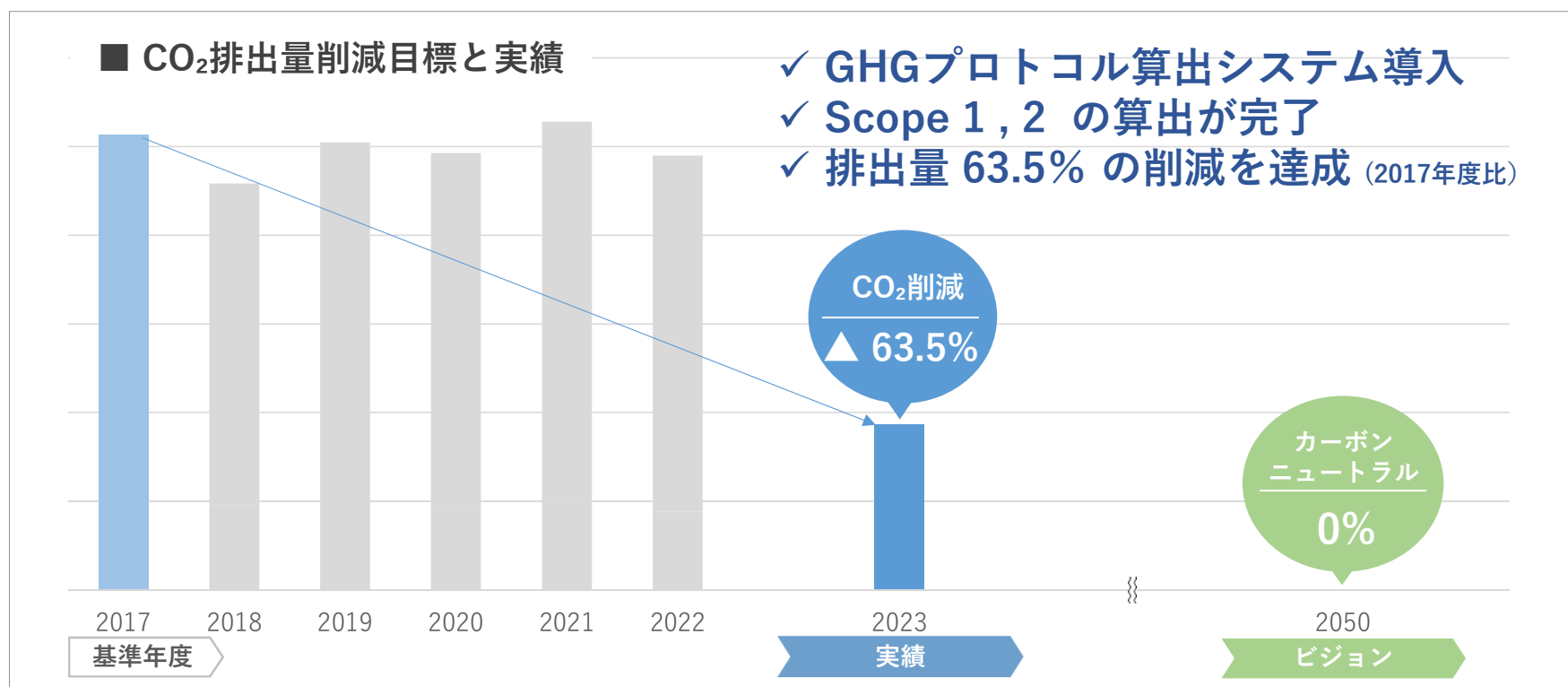
カーボンニュートラルに向けた取り組み



カーボンニュートラルに向けた取り組み

このたび「GHGプロトコル算出システム」を導入し、Scope1とScope2の排出量の算定を完了いたしました。これにより、これまで進めてきたCO₂排出量削減の取り組みを、より正確に把握することが可能となりました。

これまでの取り組みの結果、2030年までに2017年比CO₂排出量50%削減という目標を2023年度に前倒しで達成することができました。



カーボンニュートラルに向けた取り組み

✓ Scope 3 の算定を開始

カーボンニュートラル達成に向けた次なるステップとして、ステイクホルダーやサプライチェーン全体での排出量削減に取り組むため、Scope3の算定を本格的にスタートさせました。
今後は、より広範な領域でのCO2削減に挑戦して参ります。



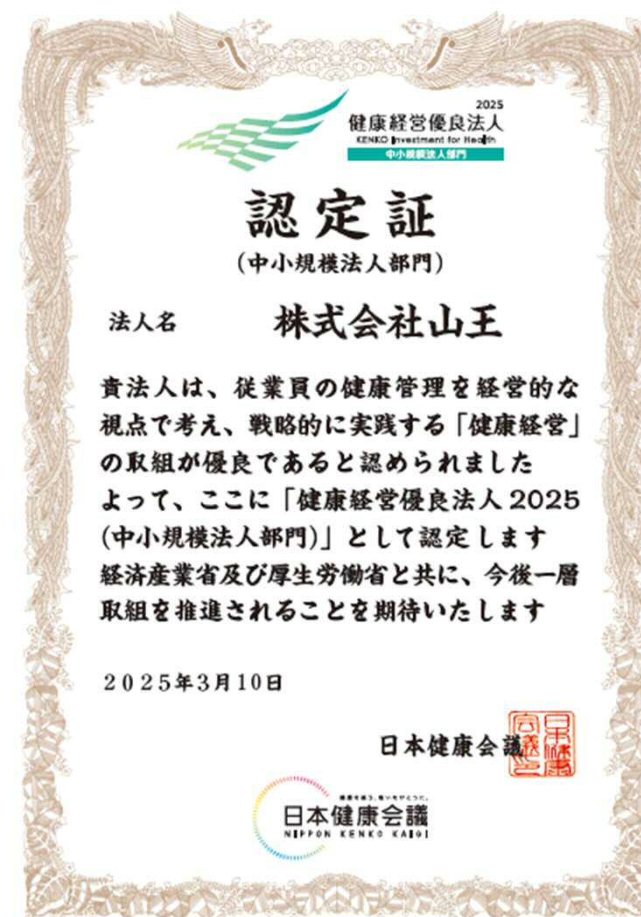
健康経営に向けた取り組み

健康経営・従業員エンゲージメント向上に向けた取り組み

従業員が元気で働き続けることができる職場づくりを目的として、2022年9月に発表した健康企業宣言に基づき、様々な施策を実施して参りました。2023年より健康保険組合連合会認定制度健康優良企業「銀の認定」を取得し、2025年には、経済産業省 健康経営優良法人認定制度 健康優良法人2025中小規模法人部門に認定されました。

これまで取り組んできた施策を継続し、健康優良法人2026中小規模法人部門の認定を目指して参ります。

当社では、今後とも社員の健康を守ることが会社の成長につながると考え、職場環境の改善や健康管理施策の推進を行ってまいります。





当社概要

人々を笑顔に、暮らしを豊かに、技術で未来につなぐ

事業内容	電子部品を対象とした貴金属表面処理加工・精密プレス加工、金型設計・製作
創業	1958年8月
代表者	代表取締役社長 荒巻 拓也
所在地	本社：神奈川県横浜市港北区綱島東5-8-8
資本金	9億6,220万円(2025年7月末現在)
売上高（連結）	108億3,037万円(2025年7月期)
事業拠点	日本・フィリピン
従業員数（連結）	403名(2025年7月末現在)

注意事項

本資料に記載の数値は、一部の項目で端数調整しております。

正確な公表数値については、決算短信をご参照ください。

本資料に記載されている業績見通しは、2025年7月時点における経済環境や事業方針などの一定の前提に基づいたものです。従って、様々な要因により実際の業績がこれらの見通し等と大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。